

幼児期は、特に、発達に個人差が大きい時期です。このリーフレットは、平均的な発達の目安としてご参考にしてください。月齢相応の行動が十分に芽生えていない場合には、それらを引き出すような遊びを工夫したり、お子さんがいろいろな経験ができる機会を持ちましょう。

お子さんの人と関わる力やコミュニケーションの力の芽生えが、月齢相応に見られない、あるいは弱いと思われるなど、お子さんの発達に気がかりがおありの場合には、かかりつけのお医者さんや、お近くの保健所、児童相談所、療育センターなどの専門機関にご相談ください。幼児期は、特に発達の個人差が大きい時期ですので、お子さん一人ひとりにあった子育てのアドバイスをもらうようにしましょう。

お住まいの地域の専門機関は以下URLから探せます。

保健所

<http://www.phcd.jp/Hclist/Hclist-top.html>

児童相談所

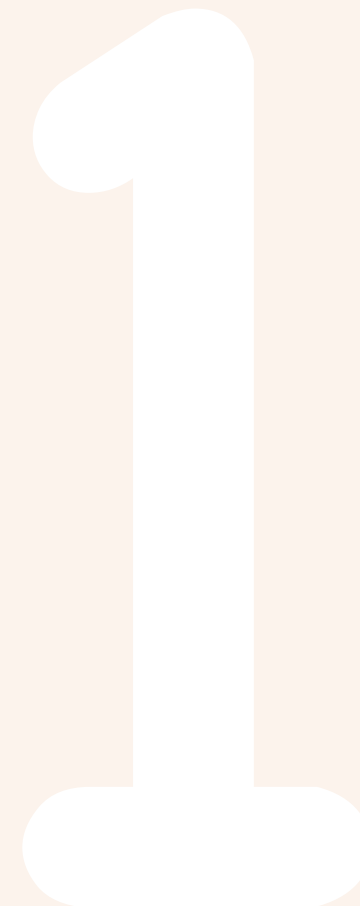
<http://www.mhlw.go.jp/support/jidousoudan/index.html>

制作

(独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
児童・思春期精神保健研究部

このリーフレットは、科学技術振興機構(社会技術研究開発事業脳科学と教育(タイプII))「社会性の発達メカニズムの解明(研究代表者:神尾陽子)」(平成16-21年度)の研究助成を受けて行われた実証的な研究成果に基づいて作成しています。

1歳を迎えるお子さんをもつ
保護者の方へ



これは、1歳前後に、お子さんの人と関わる力やコミュニケーションの力がどのように芽生えていくかを見守っていただくためのリーフレットです。

もうすぐお子さんの1歳のお誕生日ですね。おめでとうございます。お子さんの中には、おしゃべりしている方もいらっしゃるでしょうし、これからおしゃべりするようになる方もいらっしゃるでしょう。お子さんは、おしゃべりするようになるずっと前から、人と関わる力やコミュニケーションの力を、日々育んできています。この時期のお子さんは、視線や声、微笑みや身振りなど、ことば以外の表現方法を精一杯使って、あなたとコミュニケーションしようとしてくるでしょう。これらの行動の芽生えが、その後の対人関係やコミュニケーションの基礎となっていくのです。

0歳後半

大人とのやりとり遊びを一緒に楽しむことができます。

- 目が合う
- 身体を揺らすと喜ぶ
- イナイイナイバーを喜ぶ
- 微笑みかけると微笑み返す
- 名前を呼ぶと反応する
- 他の子どもに興味を示す

● ワンポイントアドバイス

イナイイナイバーや、身体を大きく揺らすなど、身体を使った遊びを、微笑みながら目を合わせて、一緒に楽しみましょう。

11か月～12か月

お子さん自ら様々なやり方で大人に自分の意思を伝えようとしてくるようになってきます。

- 大人の注意をさかんにひこうとする
- 大人の真似をする
- 大人が指さしたものを見る
- 欲しいものを指さして伝える
- 興味があるものを指さして伝える



● ワンポイントアドバイス

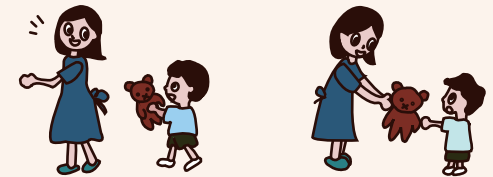
遊びの中で、大人がお子さんの真似をしたり、お子さんが大人の真似をしたくなるような関わりをしてみましよう。お子さんは、喜んでもっとやってほしいと要求してくるでしょう。

また、お子さんが欲しがったり、興味を示しているものを見つけたら、一緒に指さしをして、顔を見ながら優しく言葉をかけてあげてください。お子さんは、いろいろなものを指さして、もっと伝えようとしてくるでしょう。

15か月～17か月

コミュニケーションの表現方法がますます複雑になってきます。

- 興味があるものを見せに持ってくる



- 大人の視線を追って、大人が見ているものを見る



- いつもと違うことがあると、親の顔を確認する



● ワンポイントアドバイス

お子さんの人と関わる力やコミュニケーションの力は、日々の経験の中で育ちます。ご家庭や地域の実情に合わせて、児童館など同年齢のお子さんと遊べる場所に出かけましょう。ご家庭にはないような遊具で遊んだり、同年齢のお子さんに関わったりするなど、いろいろな経験ができる機会を持ちましょう。